

シンポジウム（WEB開催）

「建物エネルギーシミュレーション評価法の開発

― その役割・ニーズ・課題・展望」

主旨

2050年のカーボンニュートラル宣言を機に、ZEBの設計・検証をはじめ、建物の省エネルギー性能を高めるためにシミュレーションツールを活用する重要性がますます高まると考えられます。省エネシミュレーション評価法作成委員会では、2013年7月から2020年3月までの7年間、建物のエネルギー消費量を推定するシミュレーションツールの予測性能について客観的な評価方法の開発に取り組んできました。その間、2016年3月には「SHASE-G 1008-2016 建物エネルギーシミュレーションツールの評価手法に関するガイドライン」を発刊し、その後も種々のツールによるシミュレーションの試行を経て、計算事例の拡充と評価法の改善・整備を行ってきました。

そこで、本シンポジウムでは、これまでの活動成果をまとめて報告し、カーボンニュートラルに向けて、建物エネルギーシミュレーションツールが果たすべき役割・ニーズ・課題・展望などを参加者と共に議論したいと思っております。

主催 空気調和・衛生工学会 特別委員会 省エネシミュレーション評価法作成委員会

開催日 令和3年3月9日（火） 13：30～16：30 （受付13:00～）

開催方法 ZOOMを利用したオンライン講演（予定）

定員 80名

参加費 無料

申し込み方法 当学会ホームページからお申し込みください。

<https://aps.shasej.org/entry/index.aspx?id=535>

プログラム

（司会：伊藤清（清水建設））

13:30-13:45 主旨説明 吉田治典（京都大学名誉教授）

【シミュレーションツールの概要】

13:45-14:15 テスト対象とした各ツールの概要 吉田治典（前出）、富樫英介（工学院大学）、
二宮博史（日建設計）、矢島和樹（三菱冷熱工業）、小野永吉（鹿島建設）

【省エネルギーシミュレーション評価法の概要】

14:15-14:30 熱負荷シミュレーションツールの評価法 伊藤 清（清水建設）

14:30-14:45 空調システムシミュレーションツールの評価法 山口弘雅 (関西電力)

14:45-14:55 休憩

【評価法の試行と活用方法】

14:55-15:10 熱負荷システムシミュレーションテストのトライアル事例 小野永吉 (前出)

15:10-15:50 空調システムシミュレーションテストのトライアル事例

品川浩一 (日本設計)、富樫英介 (前出)、矢島和樹 (前出)

15:50-16:00 理解度チェックリスト 藤井良平 (四国電力)

【質疑・討論】

16:00-16:20 質疑・討論

16:20-16:30 まとめと今後の展望 赤司泰義 (東京大学)